奈良県・中国ゆかりの地紹介

第五弾　高松塚古墳・キトラ古墳

今年は、奈良県と中国陝西省が 2011 年に友好提携を締結して 10 周年を迎える記念の年です。これを記念して、奈良県内にある奈良と中国とのゆかりの地、特に陝西省とのゆかりを中心にご紹介しています。第五弾となる今回は、高松塚古墳とキトラ古墳をご紹介します！

高松塚古墳は、奈良県明日香村にある古墳で、１９７２年にはその石室において、日本で初めて極彩色の壁画が発見されました。また、１９８３年には、同じく明日香村にあるキトラ古墳でも、国内２例目となる極彩色の壁画が発見されました。特に高松塚古墳は、日本で初めて発見された極彩色の壁画古墳だったこともあり、発見当時は大きな話題となり、この発見を記念して、西壁に描かれている「女子群像」などを描いた記念切手が発売されるほどでした。両古墳壁画とも、高い文化的価値を有するものとして、国宝に指定されています。

両古墳の壁画には、古代中国の神話に出てくる東西南北の四方を守る神である青龍（せいりゅう）、白虎（びゃっこ）、朱雀（すざく）※1、玄武（げんぶ）の四神が描かれており、古代中国の影響を受けていたことを物語っています。

※1 高松塚古墳の朱雀は、盗掘時に破壊されたため、確認できていません。

一方、中国の古都・長安のあった陝西省にも、多くの古墳があります。そのうち、１９６０年から１９６２年に発掘された永泰公主墓（えいたいこうしゅぼ）に描かれている「仕女図（しじょず）」は、高松塚古墳西壁に描かれている「女子群像」と構図や持ち物がよく似ていることから、当時の唐と日本の間に文化的な繋がりがあったと考えられています。

奈良県と陝西省の考古学における繋がりは現在も続いており、奈良県立橿原考古学研究所と陝西省の西北大学との間で、考古学や保存科学などの専門分野における研究交流を行っています。私もこの交流事業で通訳・翻訳などのサポートを行っており、微力ながらも携われていることに誇りを感じています。

（奈良県国際交流員　呉春蘭）

陝西省　乾陵　外観
写真提供：中国駐大阪観光代表処

永泰公主墓・仕女図（乾陵博物館）
写真提供：陝西省人民対外友好協会